

2015 年度

地球温暖化対策計画書

1 指定地球温暖化対策事業者の概要

(1) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

指定地球温暖化対策事業者 又は特定テナント等事業者の別	氏名（法人にあつては名称）
指定地球温暖化対策事業者	京王電鉄株式会社
特定テナント等事業者	株式会社京王プラザホテル

(2) 指定地球温暖化対策事業所の概要

事業所の名称		京王プラザホテル新宿							
事業所の所在地		東京都新宿区西新宿2丁目2番1号							
事業の業種	分類番号	K69	K_不動産業_物品賃貸業	不動産賃貸業・管理業					
	産業分類名	不動産賃貸業・管理業							
業種等	事業所の種類	主たる用途	ホテル						
		建物の延べ面積 (熱供給事業所にあつては熱供給先面積)		前年度末	175,065.12	m ²	基準年度	175,065.12	m ²
		用途別内訳	事務所	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			情報通信	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			放送局	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			商業	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			宿泊	前年度末	175,065.12	m ²	基準年度	175,065.12	m ²
			教育	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			医療	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			文化	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			物流	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			駐車場	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			工場その他上記以外	前年度末		m ²	基準年度		m ²
事業の概要		株式会社京王プラザホテルへ建築物の賃貸を行っている。 ・昭和46年6月 京王プラザホテル（本館）竣工、昭和55年11月 京王プラザホテル（南館）竣工 ・本館：地上47階、地下3階、塔屋1階 南館：地上35階、地下3階、塔屋1階 ・本館10階 南館11階から上階は客室（客室数 1,438室） ・本館2・3・7・43・44・45階、南館2・8階は料飲店舗・厨房 ・南館3階テナント店舗（物販等）、本館4・5・42・44・47階、南館4・5階は宴会場 ・本館南館共に1階～地下2階 駐車場 事務所（本館9・10階も含む）							
敷地面積							14,500.37	m ²	

(3) 担当部署

計画の 担当部署	名称	京王電鉄株式会社 開発推進部	
	連絡先	電話番号	042-337-3338
		ファクシミリ番号	042-374-9812
		電子メールアドレス	
公表の 担当部署	名称	京王電鉄株式会社 開発推進部	
	連絡先	電話番号	042-337-3338
		ファクシミリ番号	042-374-9812
		電子メールアドレス	

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページで公表	アドレス :	http://www.keio.co.jp/
	<input type="checkbox"/> 窓 口 で 閲 覧	閲覧場所 :	
		所在地 :	
		閲覧可能時間	
	<input type="checkbox"/> 冊 子	冊子名 :	
入手方法 :			
<input type="checkbox"/> そ の 他			

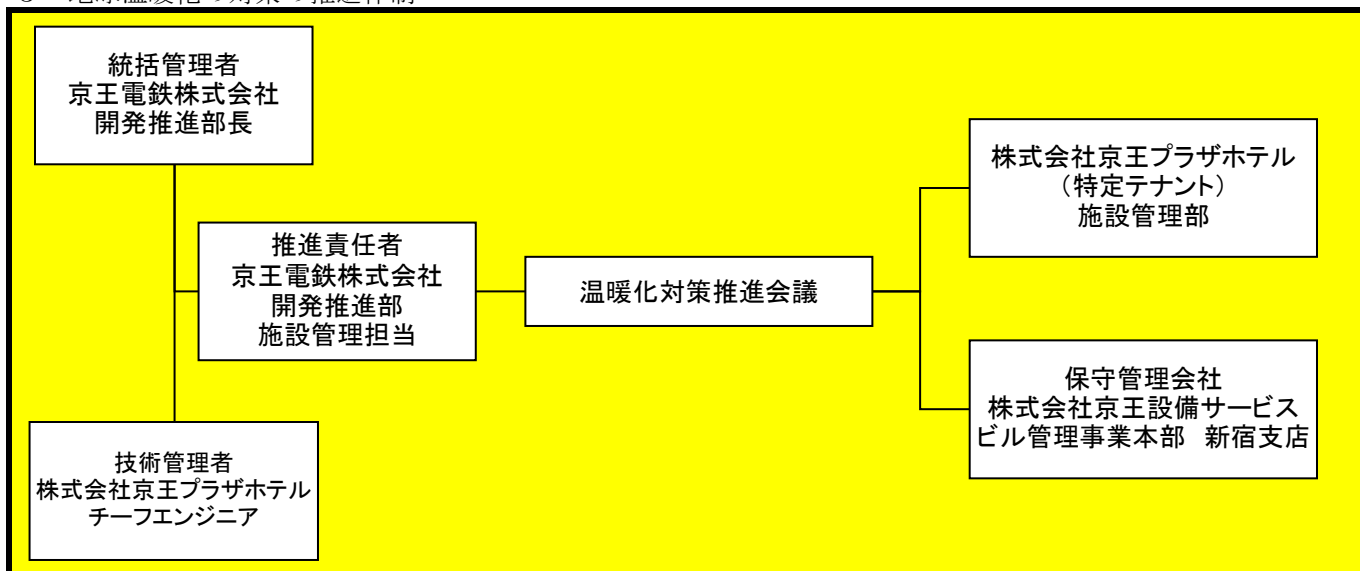
(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2009	年度	事業所の 使用開始年月日	<input checked="" type="radio"/> 平成18年3月31日以前
特定地球温暖化対策事業所	2009	年度		<input type="radio"/> 平成18年4月1日 以降

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

当社では、2000年11月に環境基本方針を制定し、環境法令遵守をはじめ、各事業の特性に応じた省エネルギー化や廃棄物削減、資源リサイクル、環境教育の実施などを積極的に推進してきました。その後、環境保全は京王グループ共通の課題であるとの認識から、2004年12月に「京王グループ環境基本方針」を制定しました。グループ社員一人ひとりが環境基本方針の内容、なかでも自分の業務に関わりがある項目について十分理解し、仕事に生かしていけるよう、環境マネジメントシステム(EMS)の継続的運用を通じて浸透を図っています。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2015 年度から 2019 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	第一計画期間の削減目標を継続するとともに、さらなる高効率設備の導入とエネルギー運用を改善し、省エネルギー化を図ります。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	第一計画期間の削減を継続し、さらなる削減を推進します。		
削減義務の概要	基準排出量	24,225 t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	I-2
	排出上限量（削減義務期間合計）	102,960 t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	15.0%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	第二計画期間の削減目標を継続するとともに、さらなる高効率設備の導入とエネルギー運用を改善し、省エネルギー化を図ります。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	第二計画期間の削減を継続し、さらなる削減を推進します。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
特定温室効果ガス（エネルギー起源CO ₂ ）		19,476	17,102	17,878	18,371	17,723
その他ガス	非エネルギー起源二酸化炭素（CO ₂ ）					
	メタン（CH ₄ ）					
	一酸化二窒素（N ₂ O）					
	ハイドロフルオロカーボン（HFC）					
	パーフルオロカーボン（PFC）					
	六ふっ化いおう（SF ₆ ）					
	上水・下水	279	226	237	253	243
合計		19,755	17,328	18,115	18,624	17,966

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/m²・年

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
延べ面積当たり特定温室効果ガス年度排出量	111.3	97.7	102.1	104.9	101.2

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2005年、2006年、2007年 ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

変更年度	年度	変更理由	
変更年度	年度	変更理由	
変更年度	年度	変更理由	

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I - 2
----------	-------

(4) 削減義務期間

2010 年度から	2014 年度まで
-----------	-----------

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	19,920	19,920	19,920	19,920	19,920	99,600
	削減義務率 (B)	6.0%	6.0%	6.0%	6.0%	6.0%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						93,625
	削減義務量 (D = Σ (A × B))						5,975
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	19,476	17,102	17,878	18,371	17,723	90,550
	排出削減量 (F = A - E)	444	2,818	2,042	1,549	2,197	9,050

(7) 特定温室効果ガスの排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

<ul style="list-style-type: none"> ・省エネへの取組み実施による排出量の減少。 ・節電実施継続による電力使用量の減少。 ・気候変動等による外的要因。 ・ホテル稼働率増に伴う電気使用量の増加

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
		【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】			
1	110100	11_推進体制の整備	CO2削減プロジェクトの立上	2009年度 実施済み	
2	120600	12_廃熱回収の管理	本館B3F蒸気ドレン熱回収	2010年度 実施済み	
3	140100	14_給湯設備の管理	シャワーヘッドの交換	2010年度 実施済み	
4	130300	13_換気設備の運転管理	南館 送排風機更新	2012年度 実施済み	高効率モータ及び平ベルト採用機器へ更新
5	130100	13_空気調和の管理	空調機の高効率化	2011年度 実施済み	
6	120500	12_熱搬送設備の運転管理	1次ブースターポンプの省エネ	2011年度 実施済み	
7	130100	13_空気調和の管理	空調エリアの合理化	2011年度 実施済み	24時間系統と他系統が混在する系統について合理化を実施
8	130100	13_空気調和の管理	全熱交換器の回収熱量可変	2011年度 実施済み	冬季有効活用できていない全熱交換器を有効活用
9	120600	12_廃熱回収の管理	ダブルバンドルヒートポンプの導入	2011年度 実施済み	高効率設備の採用
10	120700	12_蒸気の漏えい及び保温 の管理	保温未施工バルブ類の保温	2012年度 実施済み	未保温のバルブ・ストレーナに対して保温を実施
11	160100	16_昇降機の運転管理	本館エスカレータ更新	2011年度	
12	130100	13_空気調和の管理	本館 空調機老朽化更新	2013年度	
13	130100	13_空気調和の管理	客室FCUの集中発停化	2013年度	
14	120500	12_熱搬送設備の運転管理	冷温水2次ポンプのインバータ化	2013年度	
15					

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
	【その他ガス削減量の削減の計画及び実施の状況】				
51					
52					
53					
	【排出量取引の計画及び実施の状況】				
61					
62					
63					

1. 会社としての取組

京王グループでは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行っています。

鉄道部門では、電車の運転に使用する電力について、最も有効な施策である車両のVVVFインバータ制御化を積極的に進め、回生エネルギーとあわせて2014年度における運転原単位(1車両1km走行あたりの消費電力量)を1960年代比で45%削減することを目標とし、2012年度に達成しました。

開発部門では、東京都環境確保条例に基づき、大規模事業所を中心に空調設備・ボイラーの高効率化、照明のLED化などの省エネルギー施策の推進や節電運用を積極的に実施し、2015年度までにCO2排出量削減義務を大幅に上回りました。さらに、キラリナ京王吉祥寺といった新築物件においても、屋上緑化や照明のLED化等を採用し、環境にやさしい建物を建設しました。

グループ会社では、西東京バスが2013年3月にハイブリッドバスを導入し、五日市エリアおよび八王子市内で運行を開始しました。

今後も社会的な変化も注視しながら継続的に環境施策を推進いたします。

2. 事業所での省エネ取組

テナント様のご理解、ご協力のもと省エネルギー化に積極的に取り組んでおります。

【これまでの実施内容】

- ①空調機インバータ化、高効率化(IPMモータ化、プラグファン化、電気集塵機化)
- ②照明器具の省エネ化
- ③客室窓ガラス断熱フィルムの設置
- ④南館蒸気弁保温ジャケット装着
- ⑤本館蒸気ドレン熱回収
- ⑥送風機の省エネ平ベルト化更新
- ⑦DHC冷水システムの密閉化
- ⑧保温未施工バルブ類の保温 等

上記の他、設備運用面での改善を行いました。今後も現状を維持するとともに、さらなるCO₂削減に向けた計画を策定し取り組む予定でございます。